

東山学区防災コミュニティプラン パート  
「わが町ウォッチング」～防災マップをつくろう!～  
実施報告書

## 解説・概要

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、死者6,432名、全壊・半壊家屋約25万棟などの甚大な被害を出し、自然災害としては戦後最大の大惨事となりました。一方、地震直後に生き埋めになったが、近隣の人々の救出作業によって助かった人も少なくなく、緊急時に命を支えあうのはまさしく「地域」であることが震災の教訓とも言えます。私たちの住む地域は、東海地震などの巨大災害が懸念されている地域であり、地域の防災力に視点を置いた様々な防災活動が求められています。

そこで、地域の防災拠点、社会資源、危険箇所など、チェックすべき項目を参加者自らが考え、その後実際にまちを歩いて点検・発見し、防災マップとして住民が共有することは、地域防災を考える上で重要であると考えます。

今回の活動は、地域に住む子どもたちが主役です。上述の項目を子どもたちの目線でチェックし、参加した子どもたちが自ら考えて手作りで「防災マップ」を作成しています。災害に強いまちづくりについて子どもたちの理解を深め、子どもも地域社会の一員であるという意識を育むことがねらいです。



(写真：事前講義を熱心に聞く参加者)

## 活動記録

### [日時・場所]

2003年7月23日(水)～24日(木)	8月25日(月)～26日(火)	8月29日(金)
千種区東山小学校(特別活動室)	千種区東山小学校(特別活動室)	千種区東山小学校(特別活動室)
鹿子町第2町内会地区	新池南町内会地区	

### [内容]

\*7月23日(水)、8月25日(月)

ゲーム&グループ分け、阪神・淡路大震災関

連の映像、事前講義(13:30～14:30)

コミュニティ・ウォッチング(14:30～16:00)

報告会(16:00～16:30)

\*7月24日(木)、8月26日(火)

事前講義(13:30～13:50)

コミュニティ防災マップ作成(13:50～16:00)

全体発表とまとめ(16:00～16:30)

\*8月29日(金)

災害図上訓練(DIG)(13:30～16:00)

全体のまとめ(16:00～16:30)

## 活動の様子

### [7月23日 鹿子第2町内会]

初日の天気は残念ながら雨。にもかかわらず、20名以上の小学生と十数名の町内会の方々が参加するという、大きな行事となりました。

行事の主演は小学生です。小学生は、大地震が起こればまちがどうなるのかということについてあまり知らなかったと思います。そこで、まず阪神・淡路大震災のようすを収めたビデオを見て地震について学びました。その後、司会者の「おうちでどんな備えをしている？」という質問には、



(写真：坂道。この地域には坂道が多い)  
「2階で寝ている。」「テレビ台のストッパーをきちんと留めている。」などの答えが返ってきました。「こまかいデータ等も取れていて、対策も立てられそうだ。」という意見もありました。

さて、雨の中でタウン・ウォッチングを行うこととなり、多くの人にとって面倒だったことでしょう。しかし、これもひとつの経験ととらえて頂けると良いと思います。実際に災害が起こり、避難するときに、天気が良いかどうかは分からないのですから。

さて、3つのグループにはそれぞれ6~9人の小学生がいましたが、ある人は白地図に記録する係として、また別の人はデジタルカメラを持って写真を撮る係として各々の役割を果たしました。どのグループの撮った写真か一目で分かるように、グループのシンボル(うさぎ、パンダ、ねこ)を持ち写真に写る人もいました。これらの仕事を、時々交代しながら行いました。

白地図を読むのは意外に難しかったかもしれません。白地図上では分かりにくいですが、急な坂道の多い地域です。子どもたちは、「(そのような坂道で)車と車がぶつからないか、怖い」とか、「ここ(比較的に見通しの良い坂)は怖くない」「遊びでいつも使っているから大丈夫」といった感想を話してくれました。平常時に危険な箇所は、災害時にさらに危険になることはあっても、決して安全にはなりません。地震防災のためのタウン・ウォッチングという特別なものを探してしまいがちですが、毎日の生活の中で危険な箇所、あるいは役立つものなどを知ることは、災害時にもいきてきます。このような視点でまちを歩くことも大切です。

「暗渠(あんきょ)」という言葉も、多くの小学生は初めて耳にしたことと思います。暗渠とは、地表面に近い地下水や浸透水を排水するため、地中に設けられる排水溝のことです。水はけを良くするために人工的に造られる暗渠については問題ないのですが、中には、かつての用水や小川の上をコンクリートでただ覆って暗渠化したものもあります。このような場所は大地震時に危険性が高く、注意が必要です。

また、災害応急用協力井戸も、馴染みの薄いものかもしれません。飲料用ではありませんが、大地震で水道が使えなくなった場合に生活用水を確保することができます。

地域を歩きながら、子どもたちには子どもたちが、大人には大人がもつ地域の情報があるのではないかと感じました。例えば、ある坂道がどのくらい危険かを、子どもは子どもの基準で判断します。ある家が

ごく最近空家になったことを大人は知っています。したがって、子ども、大人、スタッフが一緒になって地域を歩き、コミュニケーションをとることで、より多くのことを学ぶチャンスが生まれると言えるでしょう。

#### [ 7月24日 鹿子第2町内会 ]

この日の作業の進め方としては、B 全サイズに拡大したコミュニティの白地図に、撮ってきた写真を貼り付けたり、説明を加えたりして、防災マップを完成させました。そして、完成した地図と一緒に班のメンバーの集合写真を撮り、最後に発表会を行いました。

作業の途中、社会資源や危険箇所を表す 15 種類のスタンプを各自に配布した早見表に押しってもらうとともに、大地図内にも押ししました。その結果、大地図には、必ずしもすべての種類のスタンプは使われませんでしたね。地域内には見るものが少なかったと言えるかもしれません。タウン・ウォッチングの際に、「何もないから面白くない」と感想を漏らしてくれた男の子がいましたが、「無い」ということが確認されることも大事かもしれません。また、それとは逆に、チェックされたもの（自動販売機）のスタンプが用意されていないこともありました。これは、スタッフ側が事前に予想していなかったものが見つかったということかもしれません。



最後の発表会では、班ごとに、何を見つけたか？どんな写真を撮ったのか、なぜ撮ったのか？などを報告しました。

(写真：撮影した写真を白地図に貼り付けて...)

#### [ 8月25日 新池南町内会 ]

最初にみんなでゲームをして、緊張を解きほぐすとともにみんなで協力することの大切さを確認しました。その後、阪神・淡路大震災のビデオを見て大地震とはどういうものなのか知って、実際に自分たちのまわりで地震が起きたらどうしたらいいのか、災害時にはどんなものが危険でどんなものが役に立つのか子供たちに考えてもらいました。子供たちは地震に対してかなりの恐怖心を持ったようですが、ここで大切なのは子供たちを安心させること、「しっかりと知識をもって冷静に行動すれば決して怖くないんだ」と思わせることです。

このことがいざというとき、子供の精神的支えになり、さらには冷静な判断力へとつながります。

さてこの日の天気は快晴、猛暑の中のタウン・ウォッチングとなりました。今回は自分の住んでいる地域を中心に「ウサギ・オバケ・カエル・ネコ・パンダ・海人」の6チームに分かれての行動となりました。各班子供が4・5人で、写真を撮る人、グループのシンボルを持って写真にうつる人、白地図にチェックする人、というように役割分担し責任を持って頑張っていました。

この地域は斜面が多く、擁壁やブロック塀、急な坂道が見られました。「このがけが崩れたら危ない」とか、「いざというとき、この坂道を通って避難するのは難しいな」などという声が聞こえてきました。

また、こどもの発想力・想像力はたいしたもので、かぎがないと使えないタイプの蛇口を発見して「この水道役に立つのかな」とか、「この家は土砂崩れで一階が埋まってしまいそうだから二階に住んだほうがいいんじゃないかな」などと話し合う場面もありました。



(写真：斜面と擁壁)

今回の地域は東山小学校から少し遠かったこと、範囲も少し広がったこともあり、タウン・ウォッチングを終えるのに2時間を要してしまいましたが、みんなが東山小学校に戻ってきたところで、撮ってきた写真を披露し一日目の日程を終了しました、

#### [ 8月26日 新池南町内会 ]

この日の作業は前日に撮った写真を大きく拡大印刷した白地図に貼り付け、それぞれ説明を付け加え防災マップを完成するというものです。写真の枚数が多く整理が難しいという意見もありましたが、どの班もそれぞれ創意工夫をし、みごとな防災マップを作り上げました。

その後、班ごとに具体的な避難経路やその他思ったことや感じたことなどを発表しました。「このビルはガラス張りなので、ガラスが割れるととても危険」「井戸の水は飲み水としては使えないかもしれないけど、風呂やトイレの水として使える」「公衆電話はテレホンカードが使えないことがあるので、小銭を用意しておくといい」などという意見が出ました。みんなの前で発表するのが恥ずかしくて、声の小さくなってしまふ子が多かったですがこれもとてもいい経験になったと思います。(写真：できあがった防災マップと記念撮影)



#### [ 8月29日 2町内会合同 ]

さていよいよこのワ・クショップの最終日です。この日は三重から南部さんをお招きして、DIG というものをやりました。DIG とは Disaster Imagination Game の頭文字をとったものですが、日本語では災害図上訓練と言います。これは文字のとおり地図を用いて行う災害シミュレーションです。これを前回までに作成した防災マップを用いて行おうというわけです。今回は鹿子第2町内会と新池南町内会の合同参加ということで、参加者数も多く大変盛り上がりしました。

この訓練はまず地震が起きてすぐ(3分後)に何をするか考えることから始まります。「危なくないところに行く」や「家が壊れてないか見に行く」という意見が出ましたが、南部さんによって以下の2つのことが大切だという話がありました。

#### 1. ドアを開けること

ドアがゆがんで開かなくなるかもしれないから。マンションなどで出入り口がひとつしかない場合はとくに注意が必要です。

#### 2. 親が落ち着いていること

親の不安や混乱が子に伝わる。こういう精神的ショックが子にP. T. S. D. をもたらすという報告があるとのこと。「何も心配なくていいよ。お母さんがついてるから大丈夫だよ」というような態度が大切です。



(写真：話を熱心に聞く参加者)

その次は地図上に今持っている情報のもと、各自宅から避難所までの最適な避難経路を考えるということを行います。最初に与えられる情報とは「まちの危険箇所や独居老人や身障者、寝たきりの人の情報」です。最初、たいていの子供は自分が安全に逃げることしか考えません。そこでそれらの体の不自由な人のことを子供に気づかせてやると、子供は避難経路をもう一度考え直します。

あとはひとつまたひとつと考慮すべき情報を追加していき、子供がその状況を想像し、避難経路を考え直すという作業を繰り返します。今回の例では「東山大通りは交通事故・交通渋滞のため通行できません」「日本語も英語も分からない外国人が住んでいます。大地震が起きたらきっと困るでしょう」というものでした。また緊急時における犬の取り扱いについても話し合いをしました。

また、ほのぼのあかりというランプの紹介がありました。災害時にも手軽に用意ができる材料を使ってろうそくが作れるということで、みんなとても真剣に聞いていました。実際に明かりをつけると会場から

わぁーと歓声があがりました。

最後に参加者全員に一言ずつ今回の活動で一番印象に残ったことをみんなの前で発表していただきました。「防災という視点から町内を見て、いろいろな発見がありました」「避難場所までの道のりがキビしいことを実感しました」「ティッシュと銀紙とサラダ油でつくる簡単なろうそくが心に残りました。」というような感想を聞くことができました。



(写真：みんなで相談しながら避難経路を決めていく...)

## まとめ

限られた時間の中で、私たちスタッフの思いがうまく伝わったかどうか分かりませんが、今回の活動がみなさんの防災意識の向上に少しでも役立ったとすれば、大変うれしく思います。いざというとき一人でできることは限られます。地域みんなで立ち上がって協力することが一番大切なことだと考えます。今回、子供・親・ご近所さん、みんな協力して立派な防災マップを作ることができましたが、本当に大切なのは出来上がったマップではなく、みんなが貴重な経験・時間を共有できたことだと思います。

## 参考資料 / データ集

### 8月26日各班発表（防災マップ）

#### オバケ班

- ・ 地震のときの具体的な避難経路
- ・ 滑車付きの看板は地震時に危ない
- ・ ガラス張りの高層ビルが危ない
- ・ 自動販売機が倒れそう
- ・ 薬局・スーパーは災害時に便利
- ・ 送水口・消火栓・井戸 火事に便利
- ・ 消火栓の上に駐車すると危険

#### カエル班

- ・ 公衆電話はテレホンカードが使えないときがあるので小銭を用意しておく
- ・ 井戸は風呂やトイレの水に使える
- ・ 井戸には水を取るための道具が必要（バケツとひも，電動ポンプ）
- ・ ひびの入った石段があった
- ・ 消火栓は消防士がいないと水が使えない
- ・ 消火栓の標識はあるが消火栓が見当たらない個所があった
- ・ 木が倒れそうだった
- ・ 広い駐車場は車がとまっても，一時的な避難場所には使える

#### 海人班

- ・ 工事現場のクレーンがただの柱の上に立っていて危険
- ・ 病院・薬局があった
- ・ 石垣がゆがみ・ひずみで壊れそうだった
- ・ 自販機の下のアンカーボルトがしっかり締まってなかった
- ・ 自転車置き場の自転車が倒れたら危険
- ・ 空家が危険（火事，犯罪の巣になる）
- ・ ピロティが危険（二階が落ちる）
- ・ プレハブは壊れやすい
- ・ 暗渠が危険 昔，水が流れてたところなんで地震の時そこから崩れるんじゃないか

#### ウサギ班

- ・ 災害時，携帯電話が通じなくなるので公衆電話は大切
- ・ 電線が落ちて危険
- ・ ブロック塀が倒れたら危険
- ・ 自販機 飲み物が買えて便利

## パンダ班

- ・ 携帯電話・家の電話はつながらなくなる
- ・ スーパーは食料品・実用品が手に入る
- ・ 動物園・植物園は一時避難所に使える
- ・ 空き家は手入れがされていないので壊れやすい
- ・ 工事中は危険なものや作りかけのものがあるため危険
- ・ 道沿いに木が植えてあるところは、木が道のほうに倒れたら消防車が通れなくなって危険
- ・ 電柱が途中で折れると倒れて危険
- ・ 一階がガレージで柱だけで支えてある家は危険（一本折れると倒れるかも）

## 29日参加者全員の発表

- ・ 地震がおさまったあとは、障害者のきゅうしゅつが第一
- ・ 子どもさんの目線での防災に感心が多くあったのがよかった
- ・ 町内をこういう視点で見られたこと、いろんな発見がありました
- ・ 2回目のマップ作りをした時に、写真をどの位置にはればいいのか分からなくなったけど、みんなと考えることができたので、そのときが嬉しかったからよかったです
- ・ 2回目のマップづくりをした時に、1回目の時にとった写真をはったり、ポストイットの紙に思ったことなど書いたのが楽しかったです
- ・ 地図を作るために外をまわりながら写真をとったりしたことがたのしかったし、心にのこりました
- ・ 写真をとったりするのが心にのこりました
- ・ 「地震がおきて3分後にどうするか」ふだん考えたこともありませんでした
- ・ 冷静に行動できるか考えさせられました
- ・ 今度地震が来ても安心感がわきました
- ・ みんなと合計5日間たのしくぼうさいのことをまなべました
- ・ しごとでたてものをじょうぶにするにはどうしたらよいかをかんがえていますが、みんなとこういう地図をつくることでじしんにもっとつよくなることがわかりました
- ・ このひがしやまのまちにすみたくなりました
- ・ みんなの元気のよさを生かしてほしい
- ・ 避難場所までの道のりがキビしいことを実感しました
- ・ 自分の住んでいるところは、がけに囲まれているので、地震の際もしがけくずれになった場合、目の前の避難所へ行くにも大変難儀なことになるとわかった。危険・要注意地帯に住んでいるといういましめになった
- ・ ほのぼのあかりがこぼれてもだいじょうぶだし、24時間ずーっとついているからあかるくてやくにたちそうです
- ・ いつも緊張ばかりしているので緊張をなおしたいです

- ・ ティッシュと銀紙とサラダ油でつくるかんたんな口ウソクが心に残りました。身近なものであんなに明るくなるんだとびっくりしました。アウトドアでも役立つそうだと思います
- ・ どこがあんぜんな道か、しらべておかなければいけないと思った
- ・ 自分の住んでいる家の周りにはブロック塀やら暗渠やら思っていたよりも危険な箇所が多い事がわかりました。又、消火栓も意外と数多く設置されていました。とても勉強になりました
- ・ ほのぼの明かりのつけ方が勉強になったので、地震がおこったときに役立てたいです
- ・ ほのぼのあかりは、地震や停電などに役立つので、家族のみんなに教えたいと思います
- ・ 子供の元気と想像力
- ・ 探検をして今まで知らなかったことや気づかなかった事を教えてもらえたこと
- ・ たんけんをしたのしかったです
- ・ 井戸を教えてもらった事が、大変びっくりしました
- ・ 日頃、何気なく通っている道も地震によって通れなくなるかも知れないおそろしさを感じた。これを機に少しでも冷静に行動できるといいな
- ・ なんぶさんD I G最高！
- ・ みんなとあえたこと。東山学区はずばらしい。緊急時も協力しよう
- ・ 家のまわりを歩いてあぶない所を見た事。全員が協力して地図を作りあげたこと

**東山学区防災コミュニティープラン3 「わが町ウォッチング」～防災マップをつくろう！～ 報告書**

2003年7月/8月

主 催：愛知県（愛知県青少年健全育成モデル事業として実施）

協 力：東山学区区政協力委員会、東山学区青年育成協議会、ピバ東山っ子委員会、さつき子ども会

企画・運営：特定非営利活動法人レスキューストックヤード

連絡先：特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通5-21-2 ライフピア本山3階

TEL/052-783-7727 FAX/052-783-7724 E-mail/info@rsy-nagoya.com <http://rsy-nagoya.com>